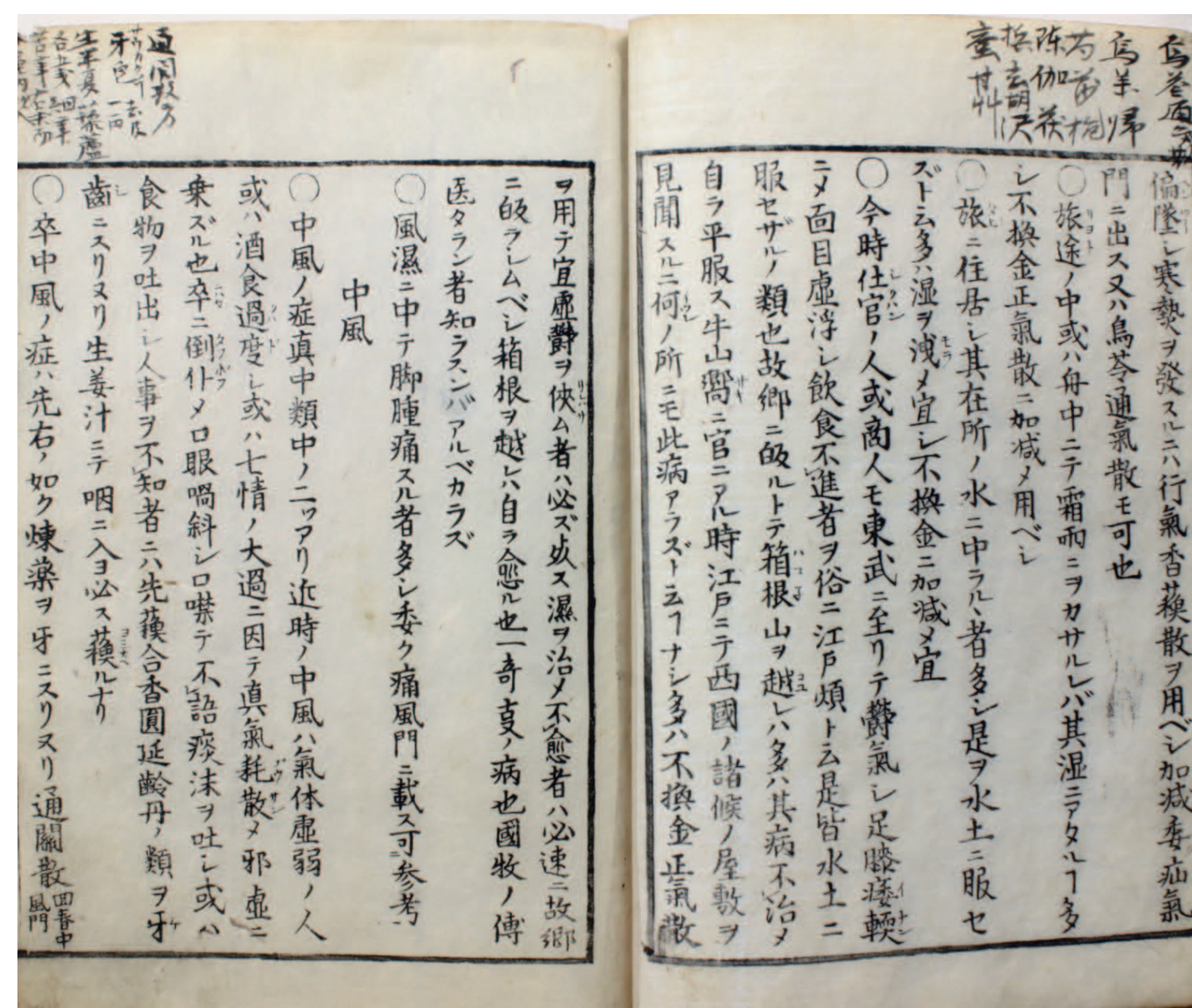


脚気 足がしびれて動けない

「脚気(かっけ)」は手足がしびれ、知覚異常や歩行障害が起こる病気で、現在では**ビタミンB1欠乏症**と判明しています。江戸時代には白米を主食とする江戸など大都市でかかる人が多く、「江戸わずらい」と呼ばれました。重症化すると衝心脚気(しょうしんかっけ)といい、突然死することもありました。ビタミンB1を含む小豆を食べたり、田舎に行って雑穀を主食とすると治りました。



香月牛山は『牛山活套』の中で、故郷に帰るために箱根を越えると治る奇病と記しています。

【元禄12年(1699)】